

東日本大震災と グリーン・ツーリズムの関わり 2



築地本願寺 左右の垂れ幕には
『がんばろう日本 とともにひとつに』の言葉

昨年三月十一日に起きた「東日本大震災」より十ヶ月が経過しました。私たち日本人はこの十ヶ月で多くの事を考えさせられました。今回は、「GTネット通信第二十五号」で掲載させていただいた、「東日本大震災とグリーン・ツーリズムの関わり」の二回目として現在、東北の復興支援のためボランティアスタッフとして活動している本多俊貴君（GTネットスタッフ）が、震災復興の現場で何を感じたかをレポートしています。

■日本GTネットスタッフ （東洋大学大学院生）

本多 俊貴 ■

明けましておめでとうございます。昨年は三月十一日に東日本大震災が発生し、東北地方が未曾有の被害に包まれました。私も四月十五日以降、「遠野山・里・暮らしネットワーク」を頼って、陸前高田市を中心に復興支援活動を行っています。被災された人々は今もなお「出口のない暗闇」の中にいるような、とても苦しい精神状態を強いられています。昨年末のある忘年会の際に、挨拶をされた方が「来年が復興元年となることを願って」と言われていました。今年が「復興元年」を実感できるような、前向きなエネルギーの湧き出る年になることを願っています。

昨年は福島県で原子力発電所の事故があり、住民の方々を暗闇に突き落としました。福島県に暮らす住民や行政職員の努力は筆舌に尽くしがたいも

のがあります。農産物の「安全性」や「安心感」を再構築するには、まだ一筋縄でいかない課題が多く、地元は今後も長期的な苦役を強いられそうです。また、陸前高田市も市街地消滅などの想定外な被害を目の当たりにして、今でも明るい未来を展望できません。ですが、被災地の人は僕らが思っているよりも「しぶとく」頑張っておられますし、僕らが思っているよりも地元同士やボランティアとの「つながり」を力に変えながら前向きに動き始めています。

今回の被災地である東北地方太平洋沿岸は、以前から過疎化に悩んでいる地域でした。若者は都市へ出て行ったまま戻らず、農業も漁業も、どうにも盛り上がりません。そうした地域に今回の大震災が襲ってきたのです。陸前高田市は震災以前に約二万四千人が暮らしていましたが、千五百人以上の人が亡くなり、その後も失業や、生活機能崩壊のために人口流

出は続いてい
ます。震災以前から
限界集落化の進
んでいた集落が、
被災によって消
滅集落の危機に
瀕しているケー
スも珍しくあり
ません。仕事もな
く、生活環境も不
便で、さらに喪失
感が身体の芯か
ら実感されてく
る今、盛岡や仙台
や東京へ移住す
る人を引きとめ
ることも難しい
状況にあります。

十一月一日の陸
前高田市の人口
は約二百万人で
す。

被災地を思う
人たちが、これか
らも被災地を思
い続け、被災地の
再開した水産物
や農産物を食べ、

たまに現地へ足を運ぶ。こうし
た「心と暮らしのネットワー
ク」を絶やしてはいけません。
ボランティア組織で支援活動
をしていた頃、僕は「ボランテ
ィアは存在することに意義が
ある」と考えていました。人間
にとって最大の毒は「無関心
」に扱われることであり、人と
人がつながり、支え合い、交流
することは「存在することに意
義がある」ことなのです。

マザーテレサは「愛の反対は
憎しみではなく、無関心です。」
と言いましたが、今回の災害を
忘れることなく、被災された
方々を思う気持ちを風化させ
ずに、今年も過ごしていくこと
が大切だと思えます。今、被災
地のボランティア活動は「減少
期」に差し掛かっています。現
地のボランティア組織は人数
不足に悩んでいますし、地元で
ボランティアとの「交流」を望
んでいる人たちも残念な気持
ちになっています。被災地を思
う人たちがこれからも現地に
足を運べるような、新しい仕組

みが必要です。今、僕はGTN
E Tとして「復興ツーリズム」
に取り組んでいます。被災地
の人達と日本各地の人達との
「つながり」を未来へつなぐこ
とに貢献できれば何よりの喜
びと思っています。

3・11以降の暮らしや生き
方については、日本社会全体の
課題です。東京の電力確保のた
めに福島は犠牲になりました。
これは大きな教訓にしなければ
なりません。これまでの都市
農村関係の在り方が、東北を中
心に問い直されなければなり
ませんし、地域と地域の「新し
いつながりの形」を探さねばな
りません。僕も「命と心をつな
ぐ復興ツーリズム」の可能性を
探りながら、この課題に向き合
いたいと思えます。

では、復興元年となる今年も、
みなさまよろしくお願い申し
上げます。

●付録

「災害復興とツーリズム」に関
するメルマガと通信誌を発行
します。希望者は左記へご連絡
ください。

NPO法人GTNET

事務局 本多俊貴

toshiki.greencollaboration
@gmail.com



昨年末のクリスマスコンサートの様子